みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　川畑曽子

三池の支援を決議

目立つた若い人達の出席

母親大会も今年で六回を迎え、着実な成果をあげてきましたが、大会は八月二十一日から三日間東京でひらかれました。三池からは石丸主婦会副会長と本所支部保母の川野さんが出席して討議に加わり、とくに三池の問題について訴えられ、大会では三池支援が決議として取上げられました。大会より帰って石丸副会長は、大会の実状をつぎのように寄せられました。

中心になつた三池問題

第六回の母親大会の目的は「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」この基本精神をつらぬいて、いま私たちはなにをしなければならないか、そのためにどうするか、なにができるのか、ということをみんなで話し合い、みんなの意思を統一していつしょに行動をおこす契機とする。また家庭の主婦、職場に働く婦人、農村漁村の母親のなやみや不満、苦しみが、ばらばらに話し合われるのではなく、立場や地域や階層をこえた共通の問題として取り上げられ、考えあう共通の場とし、具体的な話し合いの中から問題の本質をつかみ、正しい解決の方向をみい出し、母親運動をさらに発展させ、母親運動の力で解決をもとめていくという目的のため八月二十一日から二十三日まで、三日間にわたつて東京でひらかれました。

一日目は分科会で法政大学で二十九分科会にわかれ、四十三の会場で具体的な身近な問題を中心に話し合いました。

二日目は、問題別集会で第一より第七までわかれて、それぞれの会場で行ないました。

一日目の問題をさらに深めて討議し、この集会の中でも一日目と変らないように、三池の問題が中心になり、三池支援が決議されました。

不当あつせん案を訴える

三日目は都の体育館で全体会議にはいり、実行委員長の河崎なつさんの力強い挨拶にはじまり、来賓のメッセージにはドイツ、キューバ、アメリカ、オーストリアの婦人たちが五人、原水禁の安井理事安保の南口さんなどが見えていました。そのご、問題別集会の発表があつて、そのため三池の特別報告に移りました。「中労委のあつせん案は、子供を正しく育てる義務がある母親の立場としても、絶対に受諾することはできません。安保に結集されたあの力を三池の問題にご支援ください」と訴えてきました。

松岡洋子先生の講演があり、三十分の全体討議に移つたわけですが時間がなく十分に討議されなくて残念でした。

決議事項ではとくに三池の問題として「合理化に反対し、三池の闘いを支援し、あつせん案拒否の激電を打ち、全国のお母さんが三池を守る会に加入しましょう」ということが決議されました。

三日間にわたりました母親大会も八月二十三日午後六時三十分、大行進の流れ解散で終了しました。

今日も暑さをいとわず主婦の討議は続く

感謝と決意を固めて

母親全国大会にはじめて参加しましたが、二十代の働く婦人がきわだつて多く全体の七割をしめ、三十代、四十代のお母さんたちが、きわめて少いことでした。はじめての参加の方も約七割で、新しい人たちの参加が目立つていたけれども、何か働く婦人の集会のぶり返しみたいな感じがしましたが、しかし、つぎの世代をになう若い人たちが、明るい生活をするために努力をされていることを感じ、頭がさがりました。

それと、ただ母親大会の決議に終らせず、みんなが地域にもち帰つて行動に移さなければならないということで、本当の母親運動に取組んでもらいたいと思います。

さいごになりましたが、福岡県の母親大会の代表者の方々には、朝早くからビラ配り、街頭カンパに立つていただき、貴重な時間をさいて三池支援にご協力をいただいたことを心からお礼を申しあげると同時に、福岡県の母親大会の実行委員の方々に厚く感謝申しあげて報告にかえさせていただきます。

八月十七日三川鉱ホッパー前広場でひらかれた「あつせん案反対総決起大会」で、主婦代表として三川支部大谷分会の橋本シズさんは、つぎのような意見を発表しました。

× × ×

名古屋のオルグ先で組合の幹部はいわれました「三池の組合員はもちろんですが、主婦の一人ひとりが名古屋のそこここにある組合の組合長より、組織のことはくわしい。とくべつ三池に来て組合の幹部に聴かなくとも、三池の主婦は素晴らしい」これは行く先ざきで聴きました。ある主婦が、宮川組合長の声をテレビを通じて聴いたと非常に緊張した表情をされました。私は答えたかつた、組合長も生きておられます、しかも現在まで堂々とどんなインタビューにも感することのない態度、これはやはり奥に貯わえられた、三池の組合員・主婦会員の土俵の選手だという自信と確信があるからでこそ、その時その場に発言されたのだと私は信じます。

苦闘は覚悟の前

統一と団結こそ勝利を

権力と金力をもつて相手がおそいかかつて来ている私共の闘いは北岡さんが申された通り、はじめから苦闘であることは覚悟の前です。かけられた鎖はなかなか断ち切つて立上ることは容易ではないが、今かけられようとしている鎖をはね除けることは、苦しい中でも鎖をかけられたあとよりも容易と思います。

名古屋の金労の第二組合員ですら、三池が勝たねば（第一組合）自分たちにもつともつと大きな鎖がかけられるのは、時間の問題だという手紙を寄越されました。現在の名古屋の第二組合員としての生活の中から、このことをよく知り過ぎておられます。それでこそ三池の第一組合のオルグと話しをしただけで、そのことがわかれば首になるというのに、首をかけて懇談会に出席して下さるのです。

支援態勢が物いうのはこれからですよといわれました。とまれ、私どもは何が何でも勝つためにはまづ統一と団結による行動が勝利のカギと信じます。マス・コミの攻撃にも常に一喜一憂することなく、どんな壁に打ちつけられてもいつでも闘い得る態勢を相手に見せてやる。どんな時間でも、どんな場所でも闘いの鋒は片時たりとゆるがせしないという行動こそが不屈不滅の姿でありましょう。さらに一人ひとりの自己判断による個人行動が、敵の欲するちょう発の要因になることも充分警戒してこそ、悔なき闘いの前進ではないでしょうか。

労働運動のよき理解者に

「総評主婦の会全国協議会」誕生

▽「総評主婦の会全国協議会」が七月末に。各労組の主婦協議会、家族会が集つて生まれました。参加したのは歴史の長い炭婦協はじめ全鉱主婦協、長崎主婦の会協議会、大分県労家族協議会など三十五万を代表する組合や地域の主婦の会代表でした。

このように多くの組合に主婦の会が生まれていますが、その主婦の会とはいつたいどんなものでしょうか。結成大会ではこんな風にまとめられました。

▽第一に主婦会は夫に協力して労働運動を理解し支持してゆきますいつも主婦としての自主性をもちながら夫と一身同体となつて生きぬいているように、組合と主婦会はあいたずさえてすすみ、闘うというのです。第二には、主婦の地位を高める闘いでもあるのですが男女平等、人間としての解放か、労働者階級の解放なしには婦人としての主婦の解放もないことをはつきりさせていくことです。第三には、母親の最大の願い子供の幸福は平和の実現なしにはありえないと労働者階級に属する労働者の妻として努力することです。

▽主婦会は日ごろ地味ですが、三池や日鋼室蘭のように夫たち労働者がいつたん闘かいに立ち上りますと、そのほんとうの価値がうきぼりになつてくることは、よく知られています。主婦の会にも、もちろん問題がないわけではありません。夫の労働組合にいつまでおぶさつているのでなく、会費の点でも活動の点でも独立してゆくこと、会がお茶のみ会に終つてしまい婦人運動としてのとりくみがよわいこと、町の婦人会との関係、組合員でない課長や上役の奥さんとのことなど。

▽でもともかく主婦の会は全国的なつながりができて、労働組合をつよくしてゆくために、まだない組合や地域にどんどん生まれてゆくことでしょう。主婦たちも労働者一人一人である主人の「内助の功」から労働者階級である夫たちの労働組合運動の大切な一部分となつてゆこうとしているのです。

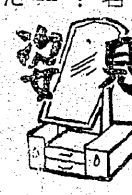
街頭ビラくばり に立つて

ロックアウトをうけて百九十五日……。そして原爆十五周年の記念すべき日。あのいまわしい想い出、一瞬にして幾万の人の生命をうばつた原爆。ふたたびくりかえしてはならないこの悲しみ……。

しかし、事実は核兵器をつんだ艦がアメリカから日本の港へあがつてる。政府は何をしている、という方が無理だろう。

安心して私たちの生活をあづけられない今の政治家たち。いつの日か、平和を明るい国づくりを実現したい。

午後三時半、「五月橋ふきんでビラくばり十名桂分会……OK」といつたあんばいで出発する。



「ご苦労さん！」「あついでしょう」「がんばつてください」「ありがとうございます」「お疲れだつたでしょう」とお互いが感謝の気持ちでいつぱいです

染料が製煉の組合員のうち一人だけ、四十四・五才くらいの婦人が、へんな顔つきで手にしたビラを丸めて、目の前でなげつけた。おりからの風にふかれて悪水川へ――。

女の感情で、いかにも勝ち誇つたようにビラをたたきつけ、私をパトウしたつもりだろう。でも私はそうは思わない。世の中の進歩も知らない、かわいそうな人よ。〃あなたは目をひらかないと、子供から笑われますよ〃……。とりのこされて終ろうとする人だ。

一方には「氷でも」とカンパを出してくれた人。〃三池ご苦労さん〃の気持ちがあふれている。あの十月二十四日に分離した三作の組合員が「ご苦労さん」とを声をかけてくれた。

労働者はみんな同じ気持ちだ私たちは母の気持ちになり大らかな考えで統一をふかめてゆこう。六日の記念すべき日に。

八月六日　午後九時
緑ガ丘　永江美由紀

母親大会に参加して

保育園　川野

日本母親全国大会は八月二十一日から二十三日まで三日間東京で開かれました。北から南から、くにの果から集つて来たお母さん達は平和の問題、くらしの問題、子供の問題等二九の分科会に別れて討議し、話し合いを深めました。私は保母の立場から保育所作りの分科会に入り三池の保育園の現状を報告しどうしてこのようになつたかを全国のお母さん方に深く考えて頂きました。

不当ロック・アウトをし楽園であるべき保育園が警官の宿舎になりその上一番残念なことには大部分の保母は子供たちを捨てて第二組合に走つて行つたこと……。

わずかに残つた第一組合の保母は無残にも入園の願いをふみにじられた子供たちに少しでも夢をかなえたいと主婦会、組合の協力で青空保育園を開園し巡回保育を行つている旨を詳しく話しました。

分科会に出席していた百名余りのお母さん達は、三池の合理化政策がこのような教育機関まで出されていることは知らなかつたと新めて三池闘争の持つ深い意味を感じとつていました。

安保闘争で自信を持つてこれに参加し、すすんで闘う計画をしたお母さんたちは三池闘争が安保につながる闘争であることと、また一つ新らしい保育所づくりという共通目標の場で知つたのです。

全国的な保育所づくり運動が広がつてゆく中で、これとは逆に三池の保育園は独立採算制から逐次自然閉鎖へともつて行こうとしている三井鉱山から、絶対に保育園を守らねばならないと三池支援を誓つてくれました。

三池の子供を守る会の人たちは二日間も仕事を休んでカンパ活動をし、三万八千円にものぼりました。

保母である私たちは当然のことと、生命を生み育て、愛する子らの明るい未来を願うお母さんたちが、三池の子供はみんなの子供として全国のお母さんたちと手をつないで、三池を守る全国的な闘いをより一そう発展させる中で、学習、行動することが三池の保育園を守ることになるのではないでしょうか。この子らのためにかしこいお母さんになりましょう。

【トピックス】

東照宮でストライキ

世界的にも指折りの観光地日光のそれも東照宮などでストライキがおこり話題をまいている。

東照宮、二荒山神社、輪王寺の国宝修理の職人約八十人が、二社一寺統一労組を結成、日給二百円引上げ、夏期手当て七十五日分などを要求して八月九日からストに入つたのがそれ。国宝修理事務所の請け負い、岸野など四業者の統一労働協約拒否、賃上げも二業者がタツタ二十円を認めただけという〃回答〃に日ごろ自立たぬ観光地の要方さんたちもたまりかね、平均日給五百円、家族手当も退職金もないのでは、ウデが泣きますよとついにストに入つたもの。

名物の紅葉と木立の中の陽明門前には、栃木県労、日光地区労、東武などの支援でまつ赤な組合旗やプラカードが立ち並び、家康以来のできごとと観光客や日光ツ子はキモをつぶしている。それでも組合員の説明に「徳川家は農民からしぼつて東照宮をたてたが、いまの政府は労働者をしぼつて修理している。これはひどかつぺ」とカンパをする観光客や市民もいる。

日光市長もたまりかねてあつせん工作に乗り出そうとしており、東照宮前のビケにも明るい空気がみなぎつている。

コンゴ勤労者に連帯表明

十三日ローマ発タス電によるとイタリア労働総同盟は、完全独立と国家の統一、欠くべからざる生活条件の向上のためにコンゴの全民主勢力とともに闘つているコンゴ勤労人民に連帯を表明する声明を発表した。イタリア労働総同盟は国連で事実上、植民地主義者の側にたつているイタリア代表の立場に抗議している。